

# どんびま

2013年11月8日発行

発行者 椋の湖農業小学校

## 坂下歌舞伎公演

11月第2日曜日は、坂下歌舞伎保存会の定期公演である。私も役者の一人だ。

地歌舞伎は江戸時代、庶民には歌舞音曲が禁じられた例外として、神への奉納芸として許可を受け、神社の境内に舞台を作って演じられてきた。岐阜県東部は保存会も、客席付きの芝居小屋も全国一多く残っている。

子どもたちの歌舞伎伝承教室を毎年開催し、定期公演で発表する。東濃歌舞伎大会や飛騨美濃歌舞伎大会などでの出演機会もある。

子どもたちは、言葉も音楽も振りも日常とはかけ離れた異次元の世界に最初は戸惑っても直になれて、短い稽古期間に一生けん命覚えて熱演してくれる。初めは照れもあってグニャグニャしているやんちゃ坊主も稽古の内に背筋がシャンとして、いい声が出るようになる。舞台に投げられる花(お金が包んである)は全部子どもたちのお駄賃である。(草)



## 11月授業日のご案内

日程 11月24日(日)  
 受付 9:00~ 9:30  
 はじめの会 9:30~ 9:40  
 授業(収穫) 9:40~ 12:00  
 収穫祭(昼食) 12:00~ 14:00  
 卒業式 14:00~ 15:00  
 (卒業証書授与)(文集配布)  
 (バケツ稲・かかしコンクール表彰)  
 郷土料理 ぜんざい、おでん、五平餅ほか

持ち物 手袋、タオル、雨具、着替え  
 買い物袋(たくさん)、箸、食器

### 卒業記念作品展

キャンプの物作り教室の作品

農小の写真・絵

その他、趣味の作品

ぜひ、出品してください。

締め切り 11月20日(厳守)

問い合わせ・緊急連絡 TEL: 0573-75-4417・FAX: 0573-75-4418  
 携帯: 090-5110-9362 (山内總太郎)

24日に欠席の人のために、11月30日(土)午前11時から12時まで、野菜の収穫だけを行います。お出かけの方は、事務局まで必ずご連絡下さい。

## ～農小レポート～

# 稲穂からお米にするのは大変だ～！

先月は台風襲来による警報発令で休校となってしまったため、後日、先生方に稲刈りをやってもらい、農小の畑に稲架(ハザ)を結って乾燥させておいた。

10月20日(日)、なんとまた今月も雨降りとなってしまった。警報が出ながら、結局はそれほど吹きも降りもせなんだ先月よりもよく降られてしまった。

- 1 午前の授業。** 朝から雨のため、又、午後は天気が回復するという予報に期待して、畑の作業は後回しにし、最初に脱穀をすることになった。農場長が雨避けのカバーをしてくれていたため、昨日からの雨で濡れてしまった部分はあったが、その部分は抜いて避けながら食事をするハウへ運んだ。足踏みの脱穀機2台と千歯扱き2台で体験をしてもらった。籾を落とした稲ワラを束ねる「すがい」をなってもらった事から、片隅では縄ないの講習会が始まって、中には数メートルもの縄をない上げた生徒さんもいた。

脱穀した籾は篩(ふるい)をかけて大きいゴミを取り、糸魚川先生がくださった唐箕(とうみ)で風選した。唐箕は風の力で良く実った籾は1番の口に、出来の悪い軽い籾は2番の口に、殻だけのものやゴミ・ホコリは吹き出し口にと選別する道具だ。

選別された籾を一升ビンに2～3合づつ入れて棒で搗く籾摺りにとりくんだ。とても時間と根気のいる作業なので、持ち帰って家で体験してもらい、できる人は更に精米として続けて、ぜひ食べてみてほしいものだ。

機械化された現在では、もちろんこんな作業方法はしないが、八十八と書く「米」を口にするまでの手間と、米を主食にするべく育ててきた先人の苦労を思ってもらうことができれば幸いである。

- 2 焼き芋。** 雨のため予定を変更中止して、芋だけを配って持ち帰りとした。
- 3 昼食。** 栗おこわ、(先月予定していた)マツタケご飯、かき玉汁、大根サラダ  
ニンジンのコンブ和え、竹輪の天ぷら、カボチャの素揚げ
- 4 午後の授業。** 期待に反して、雨が強くなってしまったので、ネギだけを使った。サツマイモ、ラッカセイは来月に持ち越しとした。エダマメは脱穀の間に先生方が刈り採り葉を落として持ち帰れるよう準備してもらった。
- 5 持ち帰り。** サツマイモ、ネギ、枝豆、
- 6 バケツ稲コンクールの審査** 審査は先月の予定だったが延期したため、適当と思われた時に刈っておいてもらって、稲束での出品となった。総評としては、今年の出来は全体に悪かった。夏の猛暑と期間の長さが災いしたものと思われる。

通常、植物は昼の高温時は栄養成長といって幹の成長や枝葉を茂らせる方に栄養が行き、夜間温度が下がると生殖成長に変わって実や種を充実させる生理となる。

全体に、茎葉の成長も籾も小さく、むしろ実(米)のっていない殻だけのものが多かった事を思うと、今年の夏の暑さはバケツ稲が順調に育つ環境の限度を越していたのではなかったかと思える。それだけに管理には、ご苦労があったであろう。

ちなみに、水田での今年の作況指数は102でやや良という作柄だった。

～あぼ兄の百姓ばなし～

## 一緒に夢を見た農業小学校 20年を振り返って(4)

農小開校20周年記念集会を12月1日に行うことになりました。

農業小学校の生みの親で児童文学作家の今西祐行先生は、神奈川県藤野町に菅井農業小学校)を立ち上げるに至った想いをこう話されていた。

「水が低きに流れるように、若い人たちが都会へ流れていく。食べていけないのだから、その人たちを責めるわけにはいかないが、問われなければならないのは国の政治のあり方だ。山里に子どもの声が聞こえなくなったのも当たり前だ。日本中の野山を駆け回って、子どもたちを連れて行ってしまったハメルーンの笛吹き男は誰だろう？どこにいるのだろう？たまたま東京に出て、夜遅く地下鉄のホームには夜9時10時だというのにランドセルを背負った小学生たちが仲間とふざけあっているのを見かける。塾の帰りだろう。そんな子どもたちを見ていると、こんどは自分が笛吹き男になって、あの子たちを一日でも山里に連れ戻したいような気がした。農業小学校と書いたのが始まりだった。」

昭和30～40年代にかけて、高度経済成長政策により、安い賃金に文句を言わずによく働く農民が都会へ流れていった。農村では歯が抜ける様に人口が減り、過疎化が始まっていった。そんな時、あぼ兄は路線バスの運転手だった。路線バスの車内では、どこそこの誰が、あの家族が引っ越して行ったなどの話をよく聞いた。

これからの農村農業をどうするかと論議が始まった中、一方では都会の過密から逃れるためお金持ちたちは山里に別荘を建てる土地を求めた。各地で土地が売られていったが、人口が増えるわけではなかった。ある新聞で「都会のつかれは田舎で」の見出しを読んで、田舎の疲れは何処で癒すのかと、読み返したことを思いだした。

そんな頃から、農山村の自然の美しさを観光資源として観光客を呼ぶ計画があちこちで立って、人口は減っても、流動人口の増加で活気を取り戻す成功例も増えていった。


今西先生の構想に、あぼ兄の思いが重なって、「都市と田舎の交流」と「農業・農村への理解」を深めてもらいたい、それが農小を始める思いであった。


しかし、開校時には、何のために誰のためにとか、何故このようなことにエネルギーを費やすのかなどと問われても、明確な答えはできなかった。無我夢中でやった1年の内に、それについてもいろいろと分かってきた。開校時の不安をすっきりさせてくれたのは、第1期の文集の中にあった、あるお母さんの文章だった。



「・・・あれだけの大人数のお食事の準備はどんなに大変だろう。畑のほうだって、子どもたちのいない間に草もひいてある。・・・帰り道で「スタッフの方々が今年いっぱい疲れてしまうのではないかしら」と主人と話した。・・・そして。キャンプの夜、安保兄さんにそんな心配を話すと、「大丈夫、僕たちの夢なんだから」と笑われてしまいました。なんて素敵なお人たちでしょう。子どもたちにとってはおじいちゃんの年頃で夢を話されるなんて、そして、それを支えるお仲間の方々・・・」

これで良いのかと自問しながら、いつも手探りでやってきましたが、先生・スタッフ、生徒さん・親さんその他にも多くの皆さんのおかげで、20年にわたり良い夢を見させていただきました。本当に、本当にありがとうございました。

# かなちゃんの虫日記

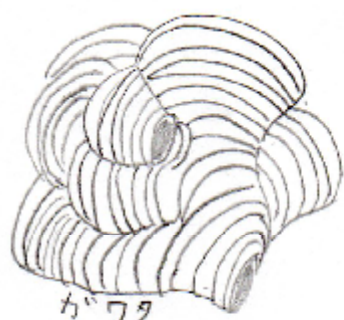
せんげつ 先月にひきつづき、へボ日記です。

ついにないだ、うちの近くでへボコンテストが  
ひらかれていたのので、少し見学してきました。

へボコンテストとは、 

へボ（クロスズメバチ）を飼育して、大きくした巣をもちより、  
巣の重さを「つすつはかり、重さで順位をつける」というものです。

巣箱からとりだされた巣は、まる、こい形かたちで、まわりか

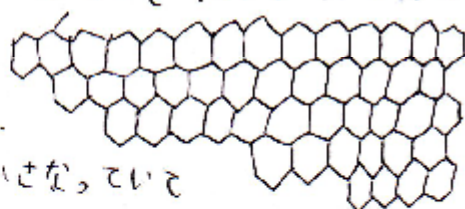


がワタ

とてもとても素敵な模様のがワタと呼ばれる  
もので包まれていました。それは、くちた木を  
かみくだき、だ液たじとまぜたものを使つかって作られて  
いくそうです！

がワタをとりのぞくと

ハチの巣が層そうに積みかさなっていて



そこにハチの子やマユがびりりとしていました。

会場では成虫はそうじまですわっていました!! させられないように

かわいそうですが、多くのハチは冬に死んでしまいます。

クロスズメバチは本来は、山の中で地面の中に巣を  
作るそうです。土の粒つぶを一つずつかんで運びだしてやるそうです。

なので、土バチとも呼ばれます。へボを飼かいたい時は

土中の巣を山から採とることから始めます。難たがかしそうですね!!!